

東労組へ悲痛の声が数多く届いています！ その2

JR東日本幹部「ベアは厳しい」「定期昇給をまずどうするか」とコメントしたことについて

- ・意味が分からない。社員のことを考えているのか。
- ・組合員や社員に周知する前に、メディアに回答することがおかしい。社員を大切にしているとは思えない行動。
- ・幹部である経営者たちの責任なのに、自分たちのせいではなく社会の責任になすりつけているように聞こえる。
- ・誰に、何を伝えたくて発信したメッセージなのか不明。
- ・元々基本給が安く、長年勤めないで元が取れない会社なのに、上げ幅が少なくなるのは致命的。
- ・ベースアップに業績は関係ない。
- ・定期昇給カット＝それぞれの1年間のレベルアップもそれくらいの働きしか無いと言われているように感じる。
- ・世間に公表する前に、社員にしっかり説明すべき。勝手に世論の雰囲気を作ろうとしている。

「労働実感」について

- ・経営陣の施策や、意味のない委員会活動や本社での思い付き的会議の立ち上げが、まさに生産性向上を阻害している最たるものである。
- ・コロナにかかりたくてかかる者などおらず、感染した社員は未知の病に心細い思いをしているはずなのに、それを見舞いもせず、あたかも感染した本人たちが悪いかのような言い回しは不愉快極まりない。
- ・入社してから生産性はほとんど向上していないように感じる。むしろ下がっている。特に、外注に出していた仕事を本体で行う事に対して、経費削減とか言うのは理解できない。これにより、生産性は落ちると思われる。

「第二基本給」について

- ・必要であるのならば、社員が納得するような説明をするべき。
- ・国鉄採用者の退職があらかたの終わりを迎えたが、その分の人件費はどこに消えているのか説明を求める。
- ・労働者をピンハネして失望させるようなことを絶対にしないで欲しい。



「生活実感」について

- ・大変苦しい。塾代も払えない。行政の生活保護を試算してみたら、今の手取りより生活保護でもらえる額の方が多かった。
- ・周りと比べて年収が更に低くなってしまった。
- ・年々と生活水準を下げることにしか考えていない。

「モチベーション」について

- ・無責任な経営を、責任の重たい現場に投げないでください。
- ・「今は働き方改革が世間の流行りだから、うちも乗っておくか」という態度が見え透いている。
- ・賃金は増えないが、業務量は変わらないので、モチベーションは上がらない。
- ・希望を言っても叶わないと思うと、将来への希望ややりたいことが見出せないし考えても無駄と感じる。
- ・ボーナスカットや福利厚生制度の恩恵も受けづらい地方支社の若手社員は、転職について考えている人が多くなってきている。
- ・毎日のように時間外労働が続いていて、メリハリがない。残業が基本になっているのはおかしい。

「定期昇給」昇給係数2カットについて

- ・社員に辞めて欲しくてやっているのか。いっそのこと希望退職者でも募ったらどうなのか。是非とも手を挙げたい。
- ・あり得ない。馬鹿にしすぎる。
- ・短期的な経営への効果に比して、若手であればあるほど影響の大きい判断。
- ・ボーナスカットはまだしも、定期昇給カットは納得がいかない。
- ・令和2年と令和3年の源泉徴収を見比べたら、所得が減っていた。景気が回復したとしても、昇給係数2のままだと将来的に不安がある。
- ・役員報酬をもっと減らせばいいのではないか。
- ・昇給係数のカットは、処分されたときではないか？

3月17日の回答指定日まで“全社員の声”を
会社に対してぶつけ続けよう！！